

産業能率大学通教校友会
2016年度 支部長・事務局長会議 議事録

作成日：2017年1月31日

作成者：桐生達子

開催日時：2017年1月28日(土) 11:00～16:00

開催場所：自由が丘キャンパス7号館7201教室

出席者（敬称略、順不同）

- ・北海道支部 土田絵里
 - ・宮城支部 高田守
 - ・福島支部 遠藤忠雄
 - ・埼玉支部 岡 佳伸
 - ・東京支部 出席者なし
 - ・神奈川支部 菊澤三奈子、加藤孝幸
 - ・静岡支部 山田友作
 - ・長野支部 湯本次雄
 - ・新潟支部 桐生達子
 - ・愛知支部 小松恵理
 - ・大阪支部 松本直樹、阪本豪
 - ・広島支部 小原啓子、角田崇文
 - ・福岡支部 都市清
 - ・沖縄支部 新川光子
 - ・校友会本部 佐藤富夫、杉山純一、渡部敬二、持木宏、入江正司、篠崎光司、末瀬勝也、伊木豪重、桐生達子(兼)
 - ・産業能率大学 浦野哲夫、小林武夫、坂井浩之、中林広治、河野英樹
 - ・自由が丘産能短大校友会会長 平石俊夫
 - ・産業能率大学校友会副会長 榎戸力將
 - ・議事録 桐生達子(兼)
- 以上、31名。

【資料】

- ・議事次第レジメ 1部
- ・出席名簿 1部
- ・交通費申請書 1部
- ・大学より、産業能率大学創立100周年に向けて、産業能率大学校友会NEWS（通学課程）

【議事】

○座長は伊木理事となり、議事が進行される事となった。

○議事録は総務部副部会長の桐生が書記を担当する事となった。

1. 開会

企画部会長篠崎さんより開会の挨拶があった。

2. 挨拶

校友会佐藤会長より挨拶があった。

産業能率大学浦野学長より挨拶があった。

産業能率大学小林理事より挨拶があった。

3. 議題

3-1. 各部会報告及びその他提案事項について

(1) 総務部会

○2016年度総務部会事業報告（中間報告）について、入江部会長より説明があった。

- ・各種助成金の支給状況について報告。今後、新支部が設立予定である。
- ・各支部PRのリーフレットを今年も作成するので協力をお願いする。提出期限厳守
- ・次回の代議員会について、広島での開催を予定している。開催予定日平成29年7月8日）詳細については別紙参照（案）

(2) 広報部会

○「はなみずき」の発行について末瀬部会長より報告があった。

- ・第27号は2月発行（1月中に発送予定）、2017年7月頃に第28号を予定している。

○「はなみずき」へのPR広告掲載について、末瀬部会長より報告があった。

- ・PR広告2件を第27号に掲載している。

○学生情報誌「NEXT」への記事掲載について末瀬部会長より報告があった。

- ・掲載は2県としているが、要望があれば3県を上限とし掲載できるので、3ヶ月前までに申し出て欲しい。

(3) 企画部会

○2016年度企画部会事業報告（中間報告）について、篠崎部会長より説明があった。

○第四回校友のつどいについて、篠崎部会長より説明があった。（予算実績対比表・アンケート結果）

- ・概ね内容は良かったという声が多かったが、参加者が少なく宣伝が足りなかった。

(4) 予算の進捗状況について、事務局河野氏より説明があった。

- ・中間報告としての予算執行状況である。

(5) 質疑応答

Q1)これからできる産業能率会とはどのような会であるか教えて欲しい（松本）

A1) 代議員会で決定したグループ同好会ひとつで、5月末に設立会を開く予定

Q2) 2016年卒業生の校友会の加入は100%ではないのか。（岡）

A2) 事務局からお願いはしているが校友会入会には強制力がないため、毎年数パーセントは入会されない方がいる

Q3) 校友会のつどいで回収されたアンケートの数が少ないのではないのか。主に関東圏の方

の出席人数はどの程度か（角）以下校友のつどいについて質問

A3) これはアンケートに答えた方的人数である。関東圏で10名程度であった。

Q3) このような参加人数で、校友のつどいをする必要性があるのか（角）

A3) 今回は想定した人数より参加人数が少なかった。PR不足が原因と考えられる。今後関東圏の支部を中心としてPRしていきたい

Q4) 次回開催が2年後は早いのではないか。（菊沢）

開催日は十分検討したい。

Q5) このアンケートについて回答率をのせることで、もっと結果がわかりやすかったのでは？また、PRの方法は『はなみずき』に掲載する以外はあるのか。また、地方でした場合、内容によっては一般の方に開放しても良いのではないか（山田）

A5) 集計方法の検討が必要。PR方法や地方開催については今後検討したいが、卒業生数を見ると、関東圏での実施が妥当である。

Q6) 関東圏の代表の方は、関東圏の方に参加いただくにはどうしたらよいと考えているか。（土田）

A7) 関東の支部間の交流が必要と考え、今回できる産業能率会などで9月に関東交流会を開く予定。（講演会と懇親会を予定）違う催しもので100名から150名参加している実績があるため、今後結びつきを深めていきたい。

3-2. 大学から校友会への要望について

○税額控除法人を目指し寄付活動について小林理事より説明があった。『産業能率大学創立100周年に向けて』のリーフレット参照

3-3. 支部活性化に伴う本部・学校への要望について

篠崎企画部会長と河野さんより、アンケートに対する回答があった。

○新会員の発掘は永遠のテーマであり、決定打はないが支部で検討して欲しい。

○学生会や短大の校友会と合同学習会などを企画しながらオール産能の目指す。

3-4. 全体討論

自由が丘産業能率大学校友会会長平石さんより

○現在の問題点は、支部全体の高齢化・減少や活動していない支部がある。広報誌の配布で本部と繋がっていると感じているという方が多いので、自筆の手紙や寄付のお願いを同封し、支部のメンバーに送っている。この活動を出会いの場を作りたい気持ちで行っている。

○産業能率大学校友会副会長榎戸さん

広報誌と同じように校友会ニュースを発行し、40周年を迎える。学園祭の協賛金を出などの活動を行っている。今後、SNSを利用しながら卒業生同士が繋がったり、一般の方と一緒にイベントを行いながら活動活性化を目指していきたい。通学生特有の世代間の結束を強めていく。

○各支部から取り組み状況や問題点など

・校友会活動の活発化について

学生会→校友会が自然な流れなので、校友会の支部長などが学生会のフォローをしてい

く。沖縄など、学生会と一緒に飲み会をすることで垣根を越えて活動している。今後、横断的な活動が必要。スクーリングや試験の前に校友会活動についてアナウンスしている。

- ・寄付について

大学の広報物や HP で宣伝していく。目標額は設定していないが、目的は教育や研究の財政基盤の確立である。研究所が地方税の控除団体になれるか確認されると良いのではないか。

- ・通学課程の短大がなくなるのではないか（福岡）

大学は 7 割程度が 3 年次編入であり、短大は大学の大切な供給源となっている。そのようなことはない。

- ・HP を活用することで新会員の勧誘になるのではないか（沖縄）

各支部の HP をうまく利用して欲しい。各支部の Facebook のリンクを張ることができるので、広報部部長まで教えて欲しい。

4. 閉会

持木副会長より閉会の挨拶があった。

- ・7月8日（土）に代議員会を予定。内容は合同部会等で検討する。
- ・9月に千葉支部・5月に産業能率会の発足があり。

5. 懇親会

IV ホールにて懇親会を開催した。

以上